

早鞆中学校だより

特別号
平成 27年 11月 18日
北九州市立早鞆中学校
文責 永田 和之

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語A・国語B・数学A・数学B・理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

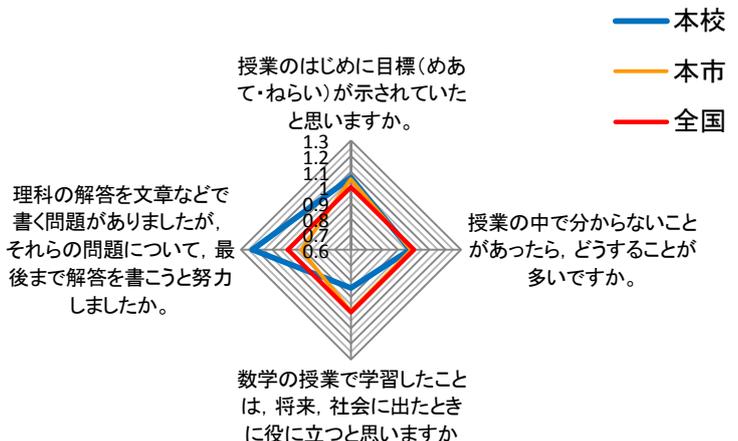
① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	上回っている	○全国平均正答率を上回っている。無回答率も全国平均に比べよい結果が出ている。学年・教科の取組の成果が表れていると考えられる。 ○文章から内容を読み取ることや文脈に即した漢字を正しく書くことが課題である。
国語B	下回っている	○全国平均正答率をわずかに下回っているものの、昨年度よりは上昇している。 ○国語Aと同様文章を読み、自分の考えをまとめて書くこと等が課題である。
数学A	上回っている	○全国平均正答率を上回っている。無回答率も全国平均に比べよい結果が出ている。学年・教科の取組の成果が表れていると考えられる。 ○文字を使っての証明や二元一次方程式と関数の関連性が課題である。
数学B	下回っている	○全国平均正答率を下回っている。無回答率については全国平均よりも高く、最後まで問題を解こうという意欲が感じられる。 ○「数学的な見方や考え方(文章形式などの応用問題)」が今後の課題である。
理科	上回っている	○全体的にどの分野も全国平均正答率を上回っている。学年・教科の取組の成果が表れていると考えられる。 ○実験・観察の結果を文章でまとめることが課題である。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

本校と本市の対全国比(全国を1とする)

○マグネットを利用して「めあて」を毎時間の最初に、また、授業の終りには本時の「まとめ」を確認するようにしている。その成果もあり、「授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。」という質問は全国平均を上回っている。
○国語A・数学A・理科が全国平均を上回っている。特に、「わからなくても最後まで挑戦する」という傾向が強くなる。しかし、結果とは逆に「授業の内容が難しい」「わからないことは先生よりも友達に聞く」といった傾向が強い。
○発表等の「自分の意見を発言する」ことに苦手な生徒が多い。各教科、班活動等でお互いの意見を出させ合い、発表する機会をたくさん持つことが課題である。
○各教科、学習した内容が普段の生活のどのような場面で利用できるのかを関連づけた内容に発展させる必要がある。



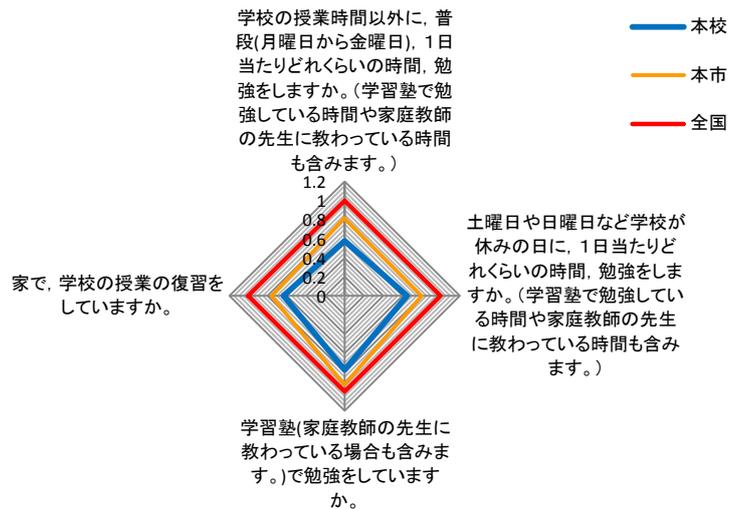
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

○家庭で本や新聞を読む生徒が全国平均と比べ少ない傾向にある。国語にも関わる内容であり、新聞を読んで書かれていることを他の人に説明できるように要約することや、本を読み感想を述べてみるなどの練習が必要である。

○予習・復習を含め家庭学習の時間が非常に少ない。学習塾に通っている生徒、家庭教師に習っている生徒も多くはない。宿題にしても学校で終わらせるといった傾向が見られる。受験を考えなければならない3年生にとって、自分の将来の夢や希望に対する目標を持たせ、計画的な家庭学習を継続させる必要がある。

本校と本市の対全国比(全国を1とする)



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。」という回答のポイントが非常に低い傾向にある。自分で考え行動することはよいことではあるが、他の意見を取り入れるという協調性を持たせることが必要である。

○行事や進路学習等を通して、将来に対する夢や希望を持たせ、それに向かって努力する生徒の育成に努めなければならない。

○生徒会が主体となり、各種「いじめ撲滅に関する取組」を行っているため、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」という認識が全国平均を上回っている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○授業の最初と最後に「めあて」「まとめ」を必ず行うようにしてきた。生徒の中にも浸透してきていることが数値からも伺えるため、今後も継続した取組を行い、「わかる授業」を目指す。

○各教科、宿題を出題している。家庭での学習時間とまでは結びついていないまでも、学力テストの結果には表れている。今後も継続した取組を行う。

○授業の中での話し合い活動を活発にさせ、意見発表、また、他の考えをきちんと聞き、それを取り入れる活動を各教科の中で取り組む。

○本や新聞を読むことが少ない傾向がある。学校図書館の利用を促し、文字に触れ、「読む・内容をまとめ理解する」ことにより、苦手意識のある人前で自分の考えや意見を発表することを向上させる取組を行う。また、将来の夢や目標がもてるような、計画的なキャリア教育(進路学習の充実)をさらに取り組む。

○教師との関係については、中学入学より細かく指導しているため、素直に優しく成長し、信頼関係が築かれていると思われる。しかし、「わからないところは友達に聞く」という傾向が強い。受験を控えた現在、さらに教師との信頼関係を密にし、進路目標が実現できる取組を行う。

○本校の特徴として、2学期中頃までは学力的なレベルアップがみられるのだが、3学期の入試の時期になると伸び悩んでしまう傾向がある。基礎・基本を徹底させ、多くの応用問題に挑戦させ、自信をもたせる取組を行う。

○朝自習の有効活用や、定期テスト前の放課後教室、学習委員会による予想問題作り等、生徒のやる気を引き出させる取組を今後も継続する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○現在も行っていることであるが、定期考査前の学習計画表作りを徹底させ、毎日、指導・助言を行う。また、保護者の協力を得るためにも保護者確認欄を設ける等の工夫をする。

○「家庭学習チャレンジハンドブック」を有効活用する。

○各教科、家庭学習ができるような宿題を出す。また、必ず「やっているか」「提出」「間違った問題のやり直し」などの点検活動等を徹底する。

○学級だより、学年だより、進路だより、生徒会新聞、図書館新聞、学校だより等を発行することで、学校行事やその取り組み方、生徒の様子等を理解してもらい、授業参観や学校行事に参加してもらうように呼びかける。

○学校だよりや学校ホームページ等を利用して、全国学力・学習状況調査の結果や課題、さらには家庭学習が不足している現状等を保護者に周知してもらい協力を得る。